

# 会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度第1回新発田市水道事業審議会
開 催 日 時	令和6年12月20日（金）午前10時～11時25分
開 催 場 所	水道局庁舎 会議室
出席者（委員）の氏名	相澤順一、石山輝、藤井誠二、笠原量子、熊谷清、黒坂真由美、小林淳一、清野茂孝、馬場玲子
事務局職員の氏名及びその職名	中野修一（水道局長）、小林一哉（業務課長）、斉藤伸久（浄水課長）、小林克佳（参事）、佐藤泰之（業務課長補佐）、佐野丈昭（浄水課長補佐）、宮野剛志（業務課経営管理係長）、金田亨（業務課経営管理係主任）
議 題	(1) 経営戦略の概要について (2) 経営状況等の現状分析について (3) その他
公開・非公開の別	公開
非公開の場合その理由	
傍聴人の数	なし
配布資料の名称	次第 委員名簿 【資料1】新発田市水道事業の現状について 【資料2】新発田市水道事業経営戦略に係る検討資料
審 議 の 内 容	別紙報告書のとおり。
その他附属機関が必要と認める事項	

## 令和6年度第1回新発田市水道事業審議会 報告書

1 開会 (10:00)	
2 あいさつ	<p>本日の内容は、会長・副会長の選出、水道事業の現状、経営戦略の概要と水道事業の経営状況の現状分析である。</p> <p>経営戦略の見直しについては、国から水道事業を含む全ての公営企業宛に通知があった。通知の内容は、見直しにあたり、今後の急速な人口減少に伴うサービス需要の減少や施設の老朽化に伴う更新需要の増大など、経営環境が厳しさが増す中、将来にわたって住民生活に必要なサービスを安定的に提供していくために策定する。また、30年から50年後の将来予測を行い、今後の人口減少等を加味した料金収入の的確な反映、施設の老朽化を踏まえた将来における所要の更新費用の的確な反映、物価上昇等を反映した維持管理、委託費、動力費等の上昇傾向の的確な反映すること、収支を維持する上で必要となる経営改革、料金改定、広域化、民間活用等の効率化、事業の廃止等を検討すること、3から5年ごとに見直すという内容の通知が出ている。この国からの通知を踏まえて、新発田市水道局も約50年の将来予測を行い、20年程度の計画期間の経営戦略を策定したい。</p>
3 自己紹介	委員、事務局の順に自己紹介する。
<p>4 会長・副会長選出 事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p>	<p>○条例では審議会に会長及び副会長を委員の互選により定めると規定しているが、どのように取り計らったらよいか。</p> <p>(事務局案はどうかとの声あり)</p> <p>○事務局案として、会長に相澤順一委員、副会長に熊谷清委員を提案する。</p> <p>(異議なし)</p> <p>○会長に相澤順一委員、副会長に熊谷清委員を選出。</p>
5 諮問	<p>○諮問書に基づき、会長に諮問する。</p> <p><b>【諮問事項】</b> 新発田市水道事業経営戦略の改定に伴う投資・財政計画について</p>
6 水道事業の現状について	○資料1「新発田市水道事業の現状について」に基づき、事務局から以下の説明を行う。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「業務について」として、水源や給水戸数・人口、給水収益等について説明。</li> <li>・「施設について」として、浄水場や配水場、ポンプ場の箇所数、配水管の総延長について説明。</li> <li>・「料金について」として、現行の口径別料金と令和元年度の料金改定について説明。</li> </ul>
<p>7 議事</p> <p>(1)経営戦略の概要について</p>	<p>○資料 2「新発田市水道事業経営戦略に係る検討資料」に基づき、事務局が以下の説明を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「水道事業経営戦略改定に関する基本的事項」として、水道事業経営戦略とはどのような計画か、経営戦略の位置づけ、改定の趣旨について説明。</li> <li>・「水道事業経営戦略の構成」について説明。</li> <li>・「本審議会における審議事項」として、「審議事項① 経営状況の分析」、「審議事項② 将来の事業環境等の確認、投資・財政計画」について、それぞれ内容と論点を説明。</li> </ul>
<p>(2)経営状況等の現状分析について</p>	<p>○資料 2「新発田市水道事業経営戦略に係る検討資料」に基づき、事務局が以下の説明を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「経営状況等の現状分析」として、五つの項目について、経営指標を用いて、過去 5 年間の当市の実績との比較及び全国の類似団体との比較による分析について説明。</li> <li>・「経営の効率性」について、代表的な指標として「経常収支比率」を取り上げ、概ね良好であることを説明。</li> <li>・「経営の健全性」について、代表的な指標として「資金残高対事業収支比率」を取り上げ、直ちに問題になるような状況ではないが、類似団体と比較すると少ない状況であることを説明。</li> <li>・「自己財源以外への依存度」について、代表的な指標として「企業債残高対給水収益比率」を取り上げ、減少傾向にあり、着実に企業債残高の減少に努めているものの、類似団体と比較すると高く、企業債に依存している状況であることを説明。</li> <li>・「老朽化の状況」について、代表的な指標として「管路経年化率」が年々上昇し、管路の老朽化が進行しており、類似団体との比較においても、相対的に管路の老朽化が進行している状況であることを説明。</li> <li>・「施設の耐震化に関する状況」について、代表的な指標として「浄水施設の耐震化率」が 3.0%と低いのは、対象の大部分が江口浄水</li> </ul>

	<p>場であり、今後、更新・耐震化が必要であること、また、更新事業が完了した後は、76.4%程度に上昇することを説明。</p> <p>・「総括と課題対策の方向性」として、当市は資金残高確保の途上であり、施設の老朽化・耐震化に関する指標が低いため、今後、更新投資負担、特に江口浄水場の更新に耐えられるだけの資金確保に向けた計画の策定、料金水準の検討が必要であることを説明。</p>
<p>【主な質疑】 質問 委員 答弁 事務局</p>	<p>●収入は、料金収入だけか。新規設備の補助金などはないのか。</p> <p>◆大きなものは、料金収入だが、当然、施設や管路の更新に係る部分については、国からの補助金がある。毎年度申請し、補助金をいただいている。</p>
<p>質問 委員 答弁 事務局</p>	<p>●補助金については、経常収支比率などの数字に反映しているのか。</p> <p>◆経常収益は、料金収入等で施設の維持管理の部分が賄えているかどうかということを見ており、建設投資に関するものは別の予算（収益的収入及び支出）で見ている。この指標の中には入っていない。これは、あくまで維持管理のランニングコストが賄えているかどうかということを見ているものである。</p>
<p>質問 委員 答弁 事務局</p>	<p>●資料 19 ページの浄水施設の耐震化率が 3.0 と極めて低く、江口浄水場が今後耐震化されれば、この数値が上がってくるという説明だったが、どれぐらい先を見込んで建て替えるのか。</p> <p>◆昭和 49 年の 2 月竣工で、約 50 年経過している。建物の耐用年数は 60 年であるが、重要な施設であるため、国の耐震基準も通常の施設より厳しく、クリアできていない。</p>
	<p>更新費用もかなりかかることから、昨年度、大学のコンクリートの専門家の先生に、浄水場内の沈殿池と濾過池のコンクリートについてお聴きしたところ、コンクリート自体は 70 年もつだろうという話をいただいた。そのことを踏まえ、建設から 50 年経っているので、20 年後には更新したいと考えている。沈殿池・濾過池本体のコンクリートは大丈夫と思われるが、池の中には汚れを下に落とす設備等があり、老朽化に対応するため、今後 20 年もたすように長寿命化の工事を今年度も実施している。</p>
<p>質問 委員 答弁 事務局</p>	<p>●配水設備の老朽化対応について、耐用年数の残年数の短い方から徐々に更新をしていく方法でやっているのか。</p> <p>◆管路は、全部で 800km 程度ある。基幹管路や医療機関、避難所の近辺など重要なところから、優先順位をつけて更新をしている。計画的に実施している状況である。</p>
<p>質問 委員</p>	<p>●能登半島では未だに水道が復旧していないところがある。老朽化した</p>

<p>答弁 事務局</p>	<p>管路を交換する際、地震で管が引っ張られても外れない管路というのが新聞などに出ているが、新発田市も、そういうものに交換しているのか。</p> <p>◆実際に、江口浄水場から内竹配水場までの基幹管路の耐震化を年次的にやっている。そこについては、引っかかって抜けないような管で入れ替えている。</p>
<p>答弁 事務局</p>	<p>◆耐震管と言われるのは、GX管とNS管という鋳鉄管の部類である。耐震性の高い管路の使用割合については、基幹管路の耐震管率というものを算出しており、新発田の場合約37%で、全国と比較しても良い方である。</p>
<p>質問 委員</p>	<p>●現在の経営状況がどうなっているかが一番大切。資料2では、営業収支が100を割っていた。別の資料の令和5年度で営業収益から営業費用を引くとマイナス。収益の中に長期前受金戻入があるが、これは何か。</p>
<p>答弁 事務局</p>	<p>◆最終的な収支は黒字になっているが、営業収支を見るとマイナスになっており、営業赤字が出ている状況である。長期前受金戻入は、過去に水道管の工事をしたときに、国からもらっている補助金については、その年度に全額収入するわけではなく、減価償却費と同じ考え方で、毎年収益化していく。管路を敷設したときの工事費は、毎年減価償却費という形で、38年間で分割して費用化しているが、それと同じ考え方で、そのときに国からもらった補助金は、38年間かけて収益化していく。</p>
<p>質問 委員</p>	<p>●取得したときに固定資産を圧縮するのではなく、償却費に見合う年数で、預かり金か何かで預かっているということか。</p>
<p>答弁 事務局</p>	<p>◆そうである。民間の場合は、国庫補助をもらって固定資産を取得した場合は圧縮記帳して損金算入するが、それが認められていないため、毎年分割して収益化している。営業収益としてはマイナスだが、いただいた補助金等を加味すると経常収支としては黒字になっているというのが、新発田市の会計の現状である。</p>
<p>(3)その他 事務局</p>	<p>○給水人口について、人口推計を進めているが、中長期ではかなり減少する見込みであり、精査をしているところである。実績として、令和3年度が8万9,741人、令和4年度が8万8,719人で、1,022人減っている。また、令和5年度が8万7,539人で、令和4年度よりも1,180人減っている状況。給水収益もほぼ比例するような形であるため、令和3年に18億5,189万5千円程度のものが、令和4年度は率にして0.95%ぐらい落ちており、18億3,435万7千円、令和4年度から令</p>

	<p>和5年度については1.38%減で18億895万7千円程度と、収益自体は給水人口減少に伴い、落ちてきている。</p> <p>浄水場と管路について、江口浄水場が耐震化率の基準を満たしていないことと、老朽化が進行していくので、その更新が必要であるとする。また、管路も年々老朽化率が少しずつ上がってきており、その対応も必要であるということ。次回以降の審議になるが、本日説明した現状分析を踏まえて、給水人口や有収水量と更新のバランスを取って作った案を、いくつかお示ししたい。基本的には、市民生活や企業活動に可能な限り影響がないよう積算をしているところである。</p> <p>また、江口浄水場を実際に見学していただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>○管路の老朽化と江口浄水場の20年後の更新を含めた投資・財政計画を立てていきたいと考えているので、この経営戦略の計画期間については、令和7年から令和26年の20年間を予定している。</p>
<p>【主な質疑】</p>	
<p>質問 委員</p>	<p>●資料 No.1 に示されている料金の設定の考え方を示してほしい。水道料金は安くなる要素はないようだが、生活になくってはならない大事なものであるし、公平性の観点もある。</p> <p>あいさつで民営化という話もあったが、次回のシミュレーションには民営化できるところは民営化するということも検討するのか。</p>
<p>答弁 事務局</p>	<p>◆現行料金の考え方については、次回、説明させていただく。事務局としても、水道料金をどういう形で負担していただくかということは、しっかり議論しなければならないと十分認識している。実際に何年後になるかはわからないが、必要となったときに向けて議論していく。</p> <p>民間委託については、国の通知文書を説明したものである。現在は料金センターに委託しており、その委託業務の範囲も増やしており、これ以上の民間委託については、現状としては考えていない。</p>
<p>質問 委員</p>	<p>●他の自治体での事例はないのか。</p>
<p>答弁 事務局</p>	<p>◆他の自治体では、例えば浄水場を一括管理委託しているところもある。当市では、江口浄水場を含めた浄水施設だけで7箇所あり、その管理もあるのですぐには難しい。</p>
<p>質問 委員</p>	<p>●すぐにというわけではなく、少しでも安く水道を提供できるように、経営の効率化の観点で、いろいろな選択肢を検討すべき。</p>
<p>答弁 事務局</p>	<p>◆それについてもしっかり議論を進めていくべきと考えている。</p>
<p>意見 委員</p>	<p>●過年度に、職員の人数の縮小や、部分的な業務の民営化など、かなり苦しい選択をして今日に至ってるのが現状だと思う。</p>
<p>質問 委員</p>	<p>●資料1で、18億円の収入で物事を考えるというのは厳しいと思い、驚いている。水道局職員の人件費は、ここから支出をしなくてもよい</p>

<p>答弁 事務局</p>	<p>ということか。</p> <p>◆この収益の中で、水道局の職員の人件費は全て賄っている。一般会計から援助してもらっているということはない。</p>
<p>質問 委員</p>	<p>●18億円の中で、支払利息をこんなに負担していけるのかと思うが、補助金をもらうときには、国から高い金利の利息を借りなければならぬような足かせがあるのか。</p>
<p>答弁 事務局</p>	<p>◆そのような足かせはない。起債については様々な選択肢がある。</p>
<p>閉会 (11 時 25 分)</p>	